

広島大の移転と本部跡地を巡る主な動き

- 1973年2月 ▶ 広島大が広島県西条町(現東広島市)への移転を決定
- 95年3月 ▶ 広島大の統合移転完了。その後、跡地は国立大学財務・経営センターへ移管
- 96年3月 ▶ 広島市が跡地のうち3㍍を取得
- 2006年3月 ▶ 広島地域大学長有志懇談会が「ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクト」をまとめ、市に提案
- 13年4月 ▶ 財務・経営センターが市へ旧理学部1号館を無償提供
- 14年1月 ▶ 財務・経営センターが民間企業グループに用地3.8㍍を売却
- 16年4月 ▶ 広島大が東千田キャンパスに未来創生センターを開設。医、歯、薬学部の教養教育の大半を東広島キャンパスから移転
- 16年8～10月 ▶ 跡地に民間スポーツクラブ、新型車の展示施設、病院や高齢者向けケアハウスが開業
- 21年6月 ▶ 広島大が法学部を東千田キャンパスに移転することが判明
- 23年4月 ▶ 東千田キャンパスで法学部が講義開始予定

広島大法学部移転

広島大(東広島市)が法学部の「都心回帰」を決めた。背景には少子化が進み、大学間の競争が激化する中、存在感と魅力をアピールする狙いがある。都心での開学やサテライトキャンパス設置の動きもあり、今回の移転は他大学の運営にも影響を与える可能性がある―1面関連。

(田中美千子)

都心部で存在アピール

法曹教育の新拠点に

広島都市圏での大学の「都心回帰」に絡む主な動き

- 2002年4月 ▶ 広島国際大(東広島市)が広島市中区に国際教育センター開設
- 09年4月 ▶ 広島都市学園大(広島市南区)が開学。市内の新設大学は、広島市立大(安佐南区)以来、15年ぶり
- 6月 ▶ 広島経済大(安佐南区)が中区に立町キャンパス開設
- 16年4月 ▶ 広島大(東広島市)が東千田キャンパス(中区)に未来創生センター開設。医、歯、薬学部の教養教育の大半を東広島キャンパスから移転
- 20年3月 ▶ 広島国際大が広島キャンパス(元国際教育センター)閉鎖。医療経営学部などは東広島、呉キャンパスに移転
- 21年4月 ▶ 広島県立観音大が、元広島国際大広島キャンパスに開学

移転の最大の狙いが、法曹養成を軸にした文系教育・研究の強化だ。東千田キャンパス(広島市中区)にはもともと、法科大学院や法学部夜間主コースがある。さらに同大は今春、法学部と法科大学院を5年で修了できる「法曹コース」を設けた。法学部を移転して連携強化し、一帯のにぎわいづくりにもつなげたいと考えている。

構想では、社会人向けのリカレント教育の充実▽企業の技術者が使えるラボの設置―など学外のニーズに応える試みも盛り込む。関係者によると、情報通信技術(ICT)などの教育プログラムの充実も検討しているという。

次と呼び水になるとの見方もある。東千田には経済学部の夜間主コースがある。法・経済学部が改組前は「政経学部」だった経緯を踏まえれば、「経済学部の昼間コースがいずれ東千田に加わることも考えられる」と関係者はみる。

移転後も週に1度程度、法学部の教養教育を東広島キャンパスで続ける構え。米アリゾナ州立大日本校設置など海外の学生や研究者の招請にも注力。東広島市の拠点性も維持し、世界トップレベルの研究者を擁する大学の発信力を高めたいもようだ。

わりと広まる。2000年代に入り、私大が市中心部にサテライトキャンパスを相次ぎ開設。09年に広島都市学園大(南区)、ことし4月には広島県立観音大(中区)が開学した。一方、閉校の決定に追い込まれた私大もある。

広島大も16年、東千田に「未来創生センター」を建設。医、歯、薬学部の1年生が学ぶ教養教育の大半を東広島市から移した経緯がある。今回の移転により、本格的な都心回帰の流れを鮮明にする。